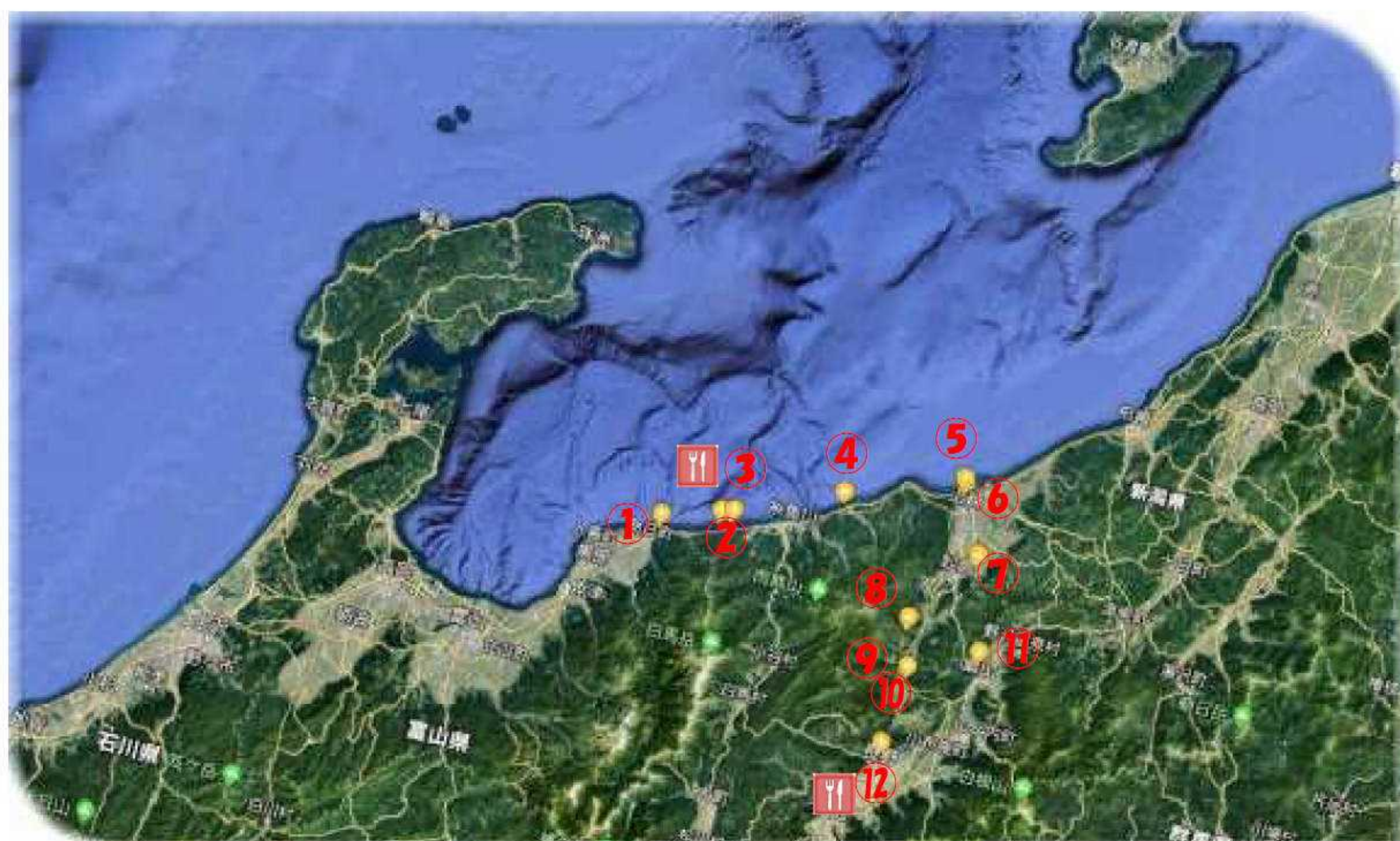


正尊寺仏教壮年会研修旅行

～親鸞聖人ご流罪の地を訪ね
恵信尼公750回忌墓参旅行～



日程表 平成30年7月11日(水)～12日(木)

1日目

正尊寺(6:30出発) → 関広見IC → 北陸朝日IC → ①横尾腰掛石 →
親不知展望台 → ②大雲寺 → ③親不知パーク(昼食) → ④木浦西性寺 →
⑤居多ヶ浜 → ⑥国府別院 → ⑦恵信尼公廟所 → ⑧赤倉温泉

宿泊: 赤倉ホテル TEL 0255-87-2001

2日目

⑧赤倉ホテル → ⑨一茶記念館 → ⑩明専寺 → ⑪藤/木榎御坊 →
⑫善光寺(昼食・堂照坊参拝) → 長野IC → 関広見IC → 正尊寺

①横尾の腰掛石・大櫓

富山県下新川郡朝日町横尾210



国道8号線北陸街道ぞいにはいたる所に親鸞聖人の御旧跡が残っています。富山平野の最北、ここから険しい越中境に入る場所で親鸞さまも休まれたことでしょう。

親不知

新潟県糸魚川市の西端に位置する崖が連なった地帯で、正式には親不知・子不知といい、北アルプスの日本海側の端で、海岸の断崖絶壁に沿って狭い砂浜があるだけで、古くから交通の難所。断崖と波が険しいため、親は子を、子は親を省みることができない程に険しい道であることから、この名が付いたといわれる。



②大雲寺

新潟県糸魚川市外波245 TEL 025-562-3030



このお寺の伝承では、親不知の難所にさしかかった親鸞さまの前に一人の漁師が突然現れ、「お坊様、シケでお困りの様子。私は立ちすくみと申す者、背負ってさしあげましょう」と、安全な所まで届けると煙のように消えていった。そのあと外波村の神主、大文字屋右近の家に「旅の僧です

が、一晚泊めて下さらんか」と頼まれたが「せっかくですが、お断りします」といわれ、あえなく軒下の石を枕に野宿となりました。

家の中では右近夫婦が、浜辺で旅の僧を背負って親不知の難所を渡った漁師の噂をしていたとき、右近が仏壇をみると、妻の佐野が信仰している如来様の腰から下がぬれ、足に砂がついて後ろ向きになっていました。「もしや、旅の僧を背負って、あの難所を渡ったのは、この如来様だったのでは…」

右近は慌てて外へ出、石を枕にして横になっていた聖人と弟子に謝り、家の中に招き入れ、親鸞さまの説教のご縁で弟子となりました。「親鸞聖人親不知通行之図」などの宝物がある真宗大谷派寺院。

③親不知ピアパーク

鮎: レストラン漁火 TEL025-561-7291

親不知ピアパークは、全国初の海上インターチェンジであり北陸自動車道「親不知IC」の下で、食事・買い物・海遊びなど人気の休憩スポットです。



④木浦西性寺

新潟県糸魚川市木浦3779 TEL025-566-2579



難所の親不知海岸を越えられた親鸞聖人は木浦村の鬼伏の地まで歩かれ、楠田出雲守という地方役人の家に宿を取られました。聖人から教えを聞いた家人は弟子となり、木浦から国府津まで船を出し、7里(28km)海路での便宜を図りました。

後に蓮如上人から西性寺という寺号を賜り、現在は真宗大谷派。

⑤居多ヶ浜(にたがはま)

親鸞聖人上陸の地 新潟県上越市五智6-3-4

承元元年(1207)35歳のときに朝廷より念仏の弾圧を受け、木浦から船に乗り3月28日にこの浜に上陸されました。



「もしわれ配所におもむかずは、何によりてか辺鄙の群類を化せん、これ猶師教の恩致なり」(御伝鈔上巻第三段 六角夢想)

片葉のアシ 親鸞聖人越後七不思議の一つ、聖人が関東へご出立されるとき、別れを惜しみ聖人の歩かれる方へ向かって手(葉)を合わせ、片葉になったといわれる。

⑥国府別院(くぶべついん)

新潟県上越市国府1-7-1 TEL 025-543-2742



親鸞聖人が恵信尼公とともに住まわれた竹ヶ花草庵跡、江戸時代後期聖人の遺徳を偲び袈裟掛け松の側に「小丸山別院」が建立され、国府別院として現在に至る。

⑦恵信尼公廟所

上越市板倉区米増27-4 記念館 TEL 0255-81-4541

昭和31年に旧板倉町米増の水田の中に「比丘尼墓」と呼び伝えられる五輪塔が発見され、恵信尼消息第8通「五重に候う塔」とある恵信尼公の墓に違いないとして、昭和37年に「本願寺国府別院」の飛地境内として整備されました。



恵信尼さまのお手紙から、ご往生は文永5年(1268)、87歳の頃で、今年はちょうど750回忌にあたり、「こぶしの里 恵信尼さま会館」で仏社会もお勤めしましょう。

平成17年『えしんの里記念館』が建設、廟所も一新されました。

⑧赤倉温泉(あくらおんせん)

新潟県妙高市赤倉486 TEL 0255-87-2001

親鸞聖人が妙高山から下山の途中に、山間にて獣が湯浴みする姿を見つけ温泉の存在を知られ、里人にこれを教えられたのが赤倉温泉の始まりと伝えられています。



赤倉温泉ホテルはロビーに仏壇があり、両脇

には初代聖人袈裟かけの松で作成されたご開山像・蓮如上人像がご安置されています。

赤倉ホテル創業者の母、平井ショウ妙好人の三回忌法要を期に、昭和34年から毎年秋このホテルで「有縁講」が勤められています。

⑨一茶記念館

長野県上水内郡信濃町柏原2437 TEL 026-255-3741



小林一茶は宝暦13年(1763)、信濃町の農家に生まれ浄土真宗の熱心な信者でした。一茶の俳句には浄土真宗の教え、「自然法爾」の教えのが大きく影響を与えています。

「かたつむり どこで死んでも わが家かな」一茶

「さて後生の一大事は、其身を如来の御前に投出して、地獄なりとも極楽なりとも、あなた様の御はからひ次第、あそばされくださりませと、御頼み申ばかり也。【おらが春】

⑩明専寺(みょうせんじ)

長野県上水内郡信濃町柏原93 TEL 026-255-2354

小林一茶の師匠寺、境内には一茶著作『おらが春』に収録された句の句碑も有る。「我と来て 遊べや親の ない雀」。赤倉ホテルの師匠寺でもあり「有縁講」とも関係のある本願寺派寺院。



⑪藤ノ木榎御坊

飯山市旭214-1 TEL 0269-62-2766 (正行寺管理)



親鸞聖人は関東へ向かわれる途中、飯山藤ノ木に逗留され、み教えを人々にお伝えされ、お堂の下には聖人説法の石が伝わっています。蓮如上人は、聖人の御旧跡を巡拝された折この地に立ち寄り榎を植えられ、それが大木となり「榎の御坊」と呼ばれています。

⑫善光寺(ぜんこうじ)

長野市長野元善町491 TEL 026-234-3591



善光寺は親鸞聖人が百日間「堂照坊」に逗留され、松を本堂にお供えし参拝されました。境内には「お花松像」「爪彫如来」が安置されています。



堂照坊

長野市長野元善町467 TEL 026-232-3427

寺宝に「笹字の名号」、親鸞聖人形見の歯が伝えられている。